

「旬」の植物紹介(2月編)

オオイヌノフグリ *Veronica persica* Poir. (ゴマノハグサ科 クワ
ガタソウ属)

季節はまだ冬の2月。晴れた日に畑の草取りをしていて気づいた。陽だまりにコバルトブルーのあでやかな花をちらほらと咲かせている。



←オオイヌノフグリの花
(2022.2.12 久米南町)

オオイヌノフグリは、1880年代にヨーロッパからやってきた。名前の由来は、タチイヌノフグリに比べて花が大きいことから「オオ」が付き、在来種の「イヌノフグリ(犬の陰囊)」があったため、不名誉？な名前になったという。イヌノフグリの花色は明るいピンク色を変えることはないのだが、本種はコバルトブルー、空色、白と変化が多いと聞く。

しかし、コバルトブルー以外の花色には出会ったことがない。きっと見過ごしているのだろう。

カワジシャの仲間を除く、オオイヌノフグリの仲間を在来種と外来種別に整理してみると、在来種:ムシクサ、イヌノフグリ 外来種:オオイヌノフグリ、コゴメイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、コテングクワガタ、フラサバソウと外来種に軍配があがっているようだ。

さて、ここで気になるのが属名の「クワガタソウ」である。何故「クワガタ」なのか？。

漢字で書くと「鍬型」であるが、これは雄しべのや雌しべの形が戦国武将の兜につける前立て(装飾品)を思わせるからだという。なるほど確かにそんな形をしている。細かい種類の説明はできなくても、このエピソードで、しばしの時間稼ぎができそうだ。



←兜の鍬形
(ウィキペディアから転載)

オオイヌノフグリの花
の拡大 →
植物雑学辞典から転載



引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」
野草の名前「春」山と溪谷社刊
ウィキペディア
森昭彦著 帰化&外来植物 950種